



# 八嶋智人さんを迎え 10年ぶりの上演!

## 井上ひさしが描いた 新しい『國語元年』の始まり

取材=スタッフ 相馬加奈子 テキスト=スタッフ 後藤友介 6月24日@東京・こまつ座



**朝海ひかる (南郷清役)**  
素晴らしいキャストの方々とお芝居が出来ると思うと、今からワクワクしております。井上先生の世界の登場人物になれる様、演出の栗山さんに導いて頂き、日本語の素晴らしさをお伝えできる様にがんばります!

**八嶋智人 (南郷清之輔役)**  
このお芝居は自分の故郷、そして今自分の住むこの国を、楽しく厳しく考える事のできるお芝居です。春日井の皆様も劇場で僕達と一緒に体験してみませんか? 僕は待ってますよん!

■新しい『國語元年』ポイント①  
井上ひさしのターニングポイント  
父・井上ひさしが東北の田舎から上京した当時は、テレビもなかったので、地域の言葉は今よりも色濃く、「方言は面白い」と思っていたようです。言葉遊びを書く中で、ある時ふっと「言葉って何だろう」と考えた。そんな時に書かれた作品が『國語元年』なんですよ。

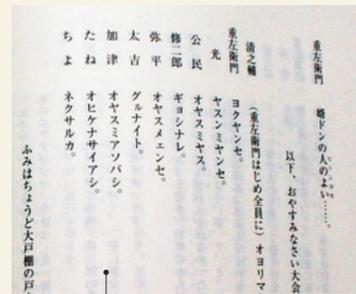
その後、言葉が悪い方に使われたらどうなるんだろう...と、あの戦争を描き、その責任は誰が取るんだろうと、晩年の井上作品が生まれる。そういう意味で、井上ひさしのターニングポイントとなったのが本作です。  
■新しい『國語元年』ポイント②  
再演こそ輝く! 役者の魅力  
『國語元年』は日本各地から人々が集ま

り、結果として日本の縮図のようになってしまった、明治初期の南郷家が舞台。南郷清之輔たちは「言葉とは何ぞや」と喧々囂々する。アプローチ自体は喜劇的ですが、根底には悲劇があります。八嶋智人さんはチャーミングで可愛らしい、笑いのイメージがあると思います。そういう方が作品を深くするんです。永らく演じてくださった佐藤B作さんとも違う、新しい清之輔を見せてもらえるのが、今から楽しみです。そして元宝塚トップスターの朝海ひかるさん。明治時代の女性らしく夫を立てつつも、気が強い薩摩の方という設定だからこそ、抜きん出て透明感のある朝海さんがピッタリなんです。  
■新しい『國語元年』ポイント③  
濃ゆい方言が意味するもの  
「ギョシナレ(おやすみなさい)」って言葉、今や使う人は少ないでしょうね。『國語元年』では、名古屋弁を話すキャラクターが語り部として登場します。私は井上ひさしが、地理的に日本の中心に位置する愛知の人を、天秤の中心にイメージで、中立的な立場で物語を進行させるようにしたのかもしれない、と考えることもあります。  
言葉の持つ歴史、慣習、それぞれを尊重しようとする思い。この作品が、みなさんの周りや歴史を振り返るきっかけになれば面白いですね。



小説とは違い、ト書き(役者の動きや舞台進行の説明)と台詞で構成されている戯曲。上演を目的に書かれた『台本』とは違い、一つの文学作品として書かれたもので、似て非なるものです。そんな戯曲『國語元年』のページを、少しだけ覗いてみましょう。

『國語元年』は、今では使われない方言も飛び交うため、読者にも意味が分かるよう標準語の横に方言が記されています。



様々な「おやすみなさい」が登場!  
登場人物全員が一斉に「おやすみなさい」。一つも同じ言葉はありません。ちなみに、太吉は英語が得意なキャラクターとして設定されています。

春日井市図書館では、井上作品を多数所蔵!  
戯曲『國語元年』を執筆する以前に、言葉をテーマに書かれた『國語事件殺人辞典』『吉里吉里人』も所蔵。井上作品の歩みを覗いてみませんか?



「長い時間をかけて書いた作品ほど、長く愛される」

NHK「ひよこりひよこ うたん島」を書くことになり、そこから才能が開花していった父。「吉里吉里人」執筆の際には、部屋一面に、吉里吉里国の架空の地図まで作っていたんですよ。東西南北にこれがある、人は生まれて死ぬから火葬場が必要で、とか。細かい事まで考えられた地図を描くんです。それで何年かかる...。その設定は物語に出てきません。でも、そこまでしないとダメだと言ってますね。毛糸を編み込むように、論理的に組み上げてから書くんです。井上ひさし曰く、「長い時間かけた分だけ、長い時間愛される」こと。『國語元年』の場合、言葉は現地に行き取って聞き取り、膨大な資料を買う。インターネットの無い時代です。だから、毎日三〜四箱ずつ本が届きました。昔は、背取り師、という専門職があって、関係ありそうな本を背表紙だけで探してくれるんです。それを自分で買ひ、自分だけの辞書を作る。相当数のノートが費やされました。そのノートに「この芝居に何を織り込むか」をナンバリングして整理。架空の人物を描く時は、モデルになる人を探して調べる。そして前後の年表を作っていく...。

父は何かを調べている時に全然違うことを思いついて、独立した作品になるということが結構ありました。当然、家の床は資料の重さで抜けましたね。



スタッフ 相馬加奈子のちよっと言わせて!

台本に記された謎の番号とは...!?  
こまつ座から参考用にと台本が送られてきたから、背表紙の数字がずっと気になっていた私。取材の時に聞いてみると、台本を誰に配布したかを管理するために割り振られた、ナンバリングだそうです。こまつ座では、劇作家に1番、演出家に2番の台本がいきわたるのが通例とのこと。疑問が解決してスッキリ! ちなみに、当財団に届いた台本は94番でした。

こまつ座 第111回公演 國語元年  
10/3(土) 13:30~ (開場は30分前) | 春日井市民会館  
[チケット情報] PiPi会員電話先行予約8/8(土)、9(日)、11(火)、インターネット先行予約8/12(水)~14(金)、一般発売8/16(日)~  
[料金] A席¥5,000、B席¥3,800 PiPi会員 A席¥4,500、B席¥3,500  
全席指定、当日券同額、未就学児入場不可  
[取扱い] 文化フォーラム春日井・文化情報プラザ、電話&インターネット予約、チケットぴあ(Pコード444-725)、ローソンチケット(Lコード48076)、名鉄ホールチケットセンター(☎052-561-7755) [助成] 平成27年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

青少年鑑賞サポートプログラム 対象公演 小中高校生は優待価格¥500、8/16(日)より申込・先着順・定員になり次第終了。詳しくは財団 HP をチェック!